

と体のバランスがとれている状態の中でこそ指導の定着度が高いはずである。
 「いきいきと行動する子」は、心身の発達の調和のとれた子であり、それがそのまま「生きて働く力」となって、社会的自立につながると共通理解している。

3. 研究との取り組みの構想

中学部の研究との取り組みを図示すると次のようになる。

生きて働く力を身につけた子



いきいきと行動する子



1. 生活リズムの確立
 - 1日の生活に軌道をして、反復しながら諸能力の定着をめざす。
 - ・学校での生活リズム
 - 帯び時間による毎日の学習の繰り返しによる能力の定着をはかる。
 - ・家庭での生活リズム
 - 学校⇄家庭で共通の課題を持つての生活。(連携の徹底)
 - ・生活ノートの活用
2. 体力づくりとの研究的取り組み
 - ・サーキット運動
 - 基礎的な運動機能の向上
 - ・ボール運動
 - ボール・友だちを意識した活動
 - ・リズム運動
 - 楽しんで取り組む姿
3. 性に関連した指導の工夫と強化
 - 性的発達に伴う不安動揺の実態把握と情緒の安定をめざした指導の事例研究
4. コミュニケーションの確立
 - 生徒⇄教師⇄親の連携の中で
 - ①長休憩・昼休憩を中心にした余暇での連携
 - ②家庭・学校での日常生活の中での指導連携
 - ③課題を意識した個別化の徹底(家庭との連携強化)

- 日常生活の観察の徹底と記録の工夫
 - ・生活ノート
 - ・個人カルテ
 - ・おたより(毎日)
 - ・生活記録等
- 運動機能のチェック
 - ・養護・訓練
 - ・体力づくりでのチェック
 - ・体力テスト
 - ・運動能力テスト等
- 諸検査
- テスト実施

中学部の合同研究の視点・内容

前ページに示すように、生徒の健康と生活について、共同で研究に取り組んでいる。さらに各学級担任は、その実態をより明確にするため、特定の個人をとらえて、個人目標の設定→目標達成への仮説→仮説の検証的実践→考察と課題としての個人研究と取り組んだ。

IV. 中学部生徒の体位・体格

現在中学部には、男子12名・女子10名の生徒が在籍している。生徒たちの4月時点での身長・体重を普通児の全国平均と比べると次のようである。

